

## [事例紹介]

# 大学と地域の連携推進に関する事例研究

—総合政策学部学生による豊田市まちづくり提案からその事業企画の提案まで

中京大学総合政策学部教授

桑原英明

## 1、はじめに

2013年3月29日、中京大学と豊田市は、大学と地域との包括連携に関する協定を締結した(<http://www.chukyo-u.ac.jp/news/2013/03/006110.html>、2015年2月23日に確認)。以下は、その時の記事の内容である。

「中京大学は愛知県豊田市のまちづくりに関して、教員や学生などの人材や大学施設を積極的に提供することで、地域の活性化に貢献していこうと、3月29日、同市との間で包括連携協定を締結した。今後、市民向けのスポーツ教室や講座など大学が持っている知的資源や経営資源を有効に活用する方策を、両者で具体的に検討していく。

また、本学のほか、豊田市内にキャンパスを持つ愛知工業大学、愛知学泉大学、日本赤十字豊田看護大学、豊田工業高等専門学校の4大学・高専も、豊田市との間で包括連携協定を締結。今後、6者で豊田市大学等連携協議会を作り、共同で実施できる事業に関しても模索していくことになった。

締結式では太田稔彦市長が「豊田市は合併により広域で多様性に富んだ町になった。市民にとって文化・教育の機会の選択肢を増やす意味でも、市内にある大学が持っている財産を有効に生かしていきたい」と協定の意義を説明。本学の北川薫学長や各大学・高専のトップらが個別に協定書に署名して、太田市長と交換した。

この後、あいさつに立った北川学長は「本学の豊田キャンパスにはスポーツ科学部、現代社会学部、工学部があり、約5000人の学生がいろんな形で地域との交流を深めている。協定締結を機に、ソフトの部分で豊田市の発展に貢献できるのではないか」と

抱負を語った。

本学はすでに体育会に所属する約2000人の学生が豊田市体育協会の会員となっている。また、昨秋からは同市やトヨタ自動車が低炭素社会に向けて取り組んでいる超小型電気自動車の実証実験にも約100人の学生や教職員が協力するなど、地域との連携を年々、強めている。

豊田市側では「学生にイベントの企画や運営に携わってもらったり、先生方に大学の枠を超えて連続講座を開いてもらったりするなど協力をお願いしていきたい」（太田市長）と話している。」

教学の長である大学の学長と地方自治体の長である市長とが包括的な連携協定を締結したことは、それまで個別に各研究室や教員あるいは学生たちが関わっていた中京大学と豊田市との関係を、さらに強固かつ継続的な関係へと一歩進めたものであると見ることができる。ちなみに総合政策学部でも、これまで主としてビジネス戦略領域を専門とする教員が、企業とタッグを組んで商品企画や商品開発を数多く手がけてきたし、融合領域（公共政策領域とビジネス戦略領域の境界に位置する新しい領域）を専門とする教員も内閣府や経済産業省あるいは名古屋市他の支援を得て「新しい公共」に取り組むNPO・NGO、あるいはSB（ソーシャルビジネス）に関わる団体や事業者の方々と連携事業を展開してきた経緯はあるものの、公共政策の領域では、その具体的な事業化の難しさもあいまって、「政策提案」に留まっていたことは否めない。

しかし、この包括連携協定をきっかけとして、公共政策の領域でも大学と地元自治体からの強力なバックアップを得て、幾多の調整過程を要する公共政策の領域における事業化のハードルは高いとはいえ、学生たちが主体となった新政策の提案が可能となったことは事実であろう。以下の事例紹介では、総合政策学部の学生たちが、豊田市の合併10周年プログラムを記念して企画された政策提案の報告会に応募したことから、その事業提案の企画立案化までに関わった道のりを辿ることにより、大学と地域との間で具体的に連携が進んできた経緯を、私たちの記憶にとどめることにしたい。

## 2、政策提案の応募から政策提企画書の作成まで

2014年4月10日、豊田市経営戦略室は、7市町村の合併による新生豊田市が誕生してからの10周年を記念して、「学生発⇒豊田市まちづくり提案」の企画を広く公募することを、市のホー

ムページに掲載するとともに報道機関各社に対して告知した ([http://www.city.toyota.aichi.jp/pressrelease/1266067\\_7011.html](http://www.city.toyota.aichi.jp/pressrelease/1266067_7011.html)、2015年2月23日に確認)。以下は、その原文である。

## 平成26年度 新規事業 「学生発⇒豊田市まちづくり提案」学生から、まちづくりへのアイデアを募集します

発表日：2014年4月10日

豊田市には、特色ある4つの大学と豊田高専があり、約1万2千人の学生が在学しています。大学のあるまち豊田市が、暮らすまち、活動するまちとしてより楽しく、魅力あるまちへ発展することを目的とし、今年度、新規事業を立ち上げました。

事業名は「学生発⇒豊田市まちづくり提案」。学生のグループから、豊田市のまちづくりに対するアイデアを募集します。

11月には、公開で発表会を開催し、審査・表彰を行ったうえで、良い提案については、施策への反映を検討します。

第1回となる平成26年度のテーマは「ミライのフツーを目指そう」です。学生の皆さんには、ミライの豊田市を想像して、こんなまちだったらいいな、こんなことがフツーになっていたらいいな、と考えを巡らせ、学生ならではの夢のあるアイデアから大学等での研究を生かした現実的な計画まで、たくさんの提案をしていただきたいと思います。

〈募集について〉

### 1. 参加条件

- ・ 大学、大学院、高専、専門学校に所属する学生で構成するグループ。市内、市外は問いません。他大学等との連携も可。
- ・ 案内容に対し、助言を求めることのできる担当教員、教官（以下、「担当教員等」という。）がいること。担当教員等は、提案書提出前に少なくとも1度は提案資料を確認し、必要な助言を行い、可能な限り発表会に同行

### 2. 応募方法

エントリーシートを市ホームページからダウンロードし、豊田市経営戦略室へメールで送信

### 3. 締切り

平成26年5月29日（木）24時

### 4. そのほか

詳細は、別添「平成26年度 学生発⇒豊田市まちづくり提案 募集要項」をご覧ください。  
問合せ 経営戦略室（電話）0565-34-◎△○▽

この政策提案に係る豊田市の募集を受けて、総合政策学部にも所属する4年生の学生を中心に（4年生の神谷明里、伊藤草太、小柳津修一、小林佑太、および3年生の加藤亜実、佐守良太、服部竜二の7名）として、当プロジェクト研究内に「豊田市政策提案プロジェクト」を編成することにした。なお、当プロジェクト研究では、同じく中京大学と包括連携協定を結んでいる三重県松阪市の政策報告会に応募するチームも、4年生を中心として別途編成することになっていた。

4月中旬以降、4年生の学生たちは就職活動や公務員試験の受験勉強の合間を縫って、豊田市政策コンペのエントリーシートを作成し、5月29日中に無事に電子メールで市の担当部署に提出を終えることができた。エントリーしたテーマ（仮題）は、「豊田市の防災まちづくり」であり、その概要は、「豊田市の防災まちづくりに関する現在の施策を検証するなかで、そこに潜んでいる諸課題を掘り起こし、解決策の具体的な方向性を探求して行きたい。全国的に見ると、旧来の青年団活動を基盤とした水防団や消防団の後継者が減少する一方で、その高齢化が著しい傾向にある。とりわけ、豊田市は平成の大合併で市域を飛躍的に拡大したことにとともに、都市的地域と農村的地域との間で、諸条件の潜在力に相当の開きがあるのではないかと推察される。学生目線を大切にしながら、説得力のある政策提案へと結び付けて行きたい。」というものであった。

なお、テーマの選定に当たっては、2014年度の本学部プロジェクト研究報告会（それぞれのプロジェクト研究に所属する3年生が合同でプレゼンテーションを行う報告会）に向けた当該プロジェクト研究のテーマが「防災まちづくり」であったことから、仮にこのテーマで取り組むことを決めておき、夏休み中に再度、より具体的な研究計画を作成することとし、そこから10月末日に設定された具体的な政策提案の締切日に向けて詳細を詰めて行くことにした。4年生の学生たちは、当面は各自の就職活動と公務員試験の受験に集中せざるを得ない状況であった。また、3年生の学生たちも、災害対策基本法を中心とした防災行政の制度や仕組みについて基礎的な事項を学習することに専念せざるを得なかった。

しかし、豊田市の担当者の方々のこの企画にかかる意気込みは、私たちの想像をはるかに超えたものであった。政策コンペへのエントリーシートを提出し終えたほぼ一月後の6月27日に担当課の方から、以下のようなメールが担当教員やグループの代表者、大学連携事務局の担当者へ届いた。以降、ほぼ月に1回から2回のペースで、このニューズレターが届くことになる。

特にこのメールでは、エントリーした団体が18チームであること、それぞれの提案した団体について豊田市の側のパートナーとなる担当部署を決め、さらには担当部署の担当者の名前と連絡先についても伝える懇切丁寧な支援体制を整えていること、さらには追加の情報提供として、若者のボランティア活動を支援する市の事業の案内が行われていることなど、エントリーした団体関係者の意欲を惹起するとともに、市の姿勢を明確に示すものであったことを指摘しておきたい。



News Letter 学生まちづくり提案 ～ミライのフツー信～ vol. 1



こんにちは。

「学生発⇒豊田市まちづくり提案」事務局の古井と申します。

このニュースレターは、平成26年度「学生発⇒豊田市まちづくり提案」にエントリーしてくださったグループ代表者の皆様、担当教員等の皆様、大学連携事務局の皆様、市担当所管あてに、送らせていただいています。

今後、この「ミライのフツー信」と題したニュースレターにのせて、大切なお知らせなどをお伝えしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

月に1～2回ほど、不定期に発信する予定です。

グループ代表者の皆さんは、是非グループのメンバーの方とも情報共有してください。

さて、学生の皆さん、まちづくり提案へのエントリー、ありがとうございました。

その後、取組状況はいかがでしょうか。

最終的に18のグループからエントリーいただきました。多くの皆様に関心をもっていただけたことに心より感謝申し上げます。

すべてのグループがそれぞれ異なる視点をお持ちで、大変興味深くエントリーシートを拝見しました。今後の展開がとても楽しみです。

エントリーしていただいたグループの一覧を作成しました。

また、各グループを担当する担当所管についても掲載していますので、別添PDFファイル「グループ&担当所管一覧」を必ず御確認ください。

皆様に担当所管をお知らせするのが遅くなってしまい、大変申し訳ありませんでした。

お待ちいただいていたグループもあったかもしれませんね。

担当所管は、提案書作成や発表会に向けて頑張っている皆さんを応援します。

提案内容に関する市の施策・事業についてお聞きになりたいことや必要なデータがあればご相談ください。ただ、皆様の提案内容と、担当所管の行っている事業内容が必ずしも合致していません。市役所の組織は縦割りですので、皆様の枠にとらわれない自由な発想が、一つの所属に収まらないのはいたしかたないところです。そのような場合は、ご質問内容に合った所属をお調べしてご案内させていただきます。

一覧に担当所管の電話番号やEメールアドレスを掲載してありますので、必要に応じて担当者にご連絡ください。（※一覧に記載してありませんが、豊田市の市外局番は0565です。）

各担当者は、担当グループのエントリーシートを確認させていただいています。

前期（第1期）試験、夏季休暇、就職活動、実習・・・と日々お忙しいことと思いますが、提案書締切まであと125日・・・頑張ってください！



～ Information ～



※ 皆さんが活動されるに当たって、参考にしていただける情報やイベントの紹介などをさせていただきます。

今回は、学生の皆さん向けのイベント紹介です。

「若者交流会」

- とき 7月19日（土）午後2時～4時30分
  - ところ とよた市民活動センター ホール
  - 内容 ボランティアや市民活動をしている若者や、これから活動をしたいと考えている若者の交流会
- 詳しくは、別添のチラシを御覧ください。

さらに、およそ一月後の7月23日と8月1日には、第二弾、第三弾のニューズレターが届くことになる。以下、同じく原文を紹介する。



News Letter 学生まちづくり提案 ～ミライのフツー信～ vol. 2 2014.7.23



こんにちは。ここのところの猛烈な湿気と暑さに体が参ってしまいそうですが、皆さん体調はいかがでしょう。

試験の真っ只中、という学生さんもいらっしゃるのでしょうか。

こんな時期は、さらっとした冷たい食べ物や、キンキンに冷えた飲み物ばかりいただきたいくなりますが、これが夏バテの一因になるようです。

若い皆さんは、ぜひスタミナのあるものをたくさんとって、“まちづくり提案の夏”をパワフルに乗り切っていただきたいと思います。

さて、現在事務局では審査委員会の調整をしています。

民間の有識者の方と豊田市長の5名で審査委員会を組織し、提案の審査にあたります。

行政だけでなく、社会の様々な側面、異なる角度から審査していただくため、各分野における、ひとかどの方々へお願いをしているところです。

正式にメンバーが決定しましたら、またお知らせしたいと思います。

先回の‘ミライのフツー信 vol. 1’で担当所管をご紹介したところ、ヒアリングを行ったグ

ループもあるようですね。

ミライのフツー信では、担当所管はもちろんですが、皆さんの力になってくれる頼もしい人材を紹介していきたいと思います。

今回は、豊田市職員の天野博之さんをご紹介します。

天野さんは公務員ですが、裏（表？）の顔をたくさんお持ちです。

ある時は、地域人文科学研究所の代表理事、またあるときは、とよた五平餅学会の学芸員……。  
神出鬼没、豊田市中あちらこちらをかけまわって、まちづくりに奔走しています。

皆さんの中にも、食にまつわることや農山村交流、イベント企画といった内容で検討されているグループがありましたが、天野さんは、地域を面白くするアイデアと経験が大変豊富ですので、提案にスパイスを加えるような、ヒントを得られるかもしれません。

提案書作成に煮詰まってしまったとき、活動のフィールドを求めているときなどに、ぜひコンタクトをとってみてください。

きっと、とびきりの笑顔で力になってくれますよ。

天野さんの活動を垣間見ることのできるホームページと連絡先のアドレスです。

- ・地域人文科学研究所 <http://catalyst-r.jimdo.com/>
- ・とよた五平餅学会のHP <http://www.toyota-go-hey.jp>
- Eメール ○△◎▽@live.jp

天野さんより一言

「人やモノ（資源）などの間に立ち、楽しくなるようなコトを起こす触媒になればと、気楽に活動しています。何か一緒に仕出かして笑い合えれば幸いです。」

提案書締切りまであと99日、暑さに負けず、がんばってください！



こんにちは。夏、ですね。

学生の皆さんは海へ、山へ、はたまた海外へと羽をのばして楽しんでいらっしゃるのでしょうか。



それとも、夏休み返上で研究に没頭されているのでしょうか。

長期の休暇を満喫できるのは学生時代の特権ですから、思い残すことのないよう、過ごしていただきたいと思います。でもまちづくり提案のことも、お忘れなきよう、お願いします。

市役所は、いわゆるお盆休みがありません。お盆ウィークも通常どおり開庁していますので、お問い合わせ等ありましたら、お気軽にお寄せください。

さて、大事なお知らせがあります。

9月に意見交換会を開催します。グループ代表者の方、担当所管、事務局の3者による初顔合わせとなります。こちらから取組状況の確認や事務連絡をさせていただくとともに、皆さんから担当所管や事務局にお聞きになりたいことなどがあれば、この機会にお気軽にお話しください。代表者以外の方ももちろん同席して下さって結構です。

そこで、今回はその意見交換会の日程調整をさせていただきます。

恐れ入りますが、別添のスケジュール確認票にご記入いただき、返信してください。

事務局で調整のうえ、各グループの日時を決定して改めて御連絡させていただきます。

ちなみに会場は市役所東庁舎73会議室で、1グループ25分程度を予定しています。

回答期限は、8月14日（木）とさせていただきますので、期限厳守でよろしく願いいたします。

第2回のニーズレターでは、豊田市における取り組み状況の進捗について、審査員の選定作業に入っていること、団体の中には既に関係部署へのヒアリングが行われていることを伝えるとともに、とりわけ、市職員であるとともにNPO法人やボランティア活動などで2足草鞋や3足草鞋を履いている方を紹介し、新たな支援者についての情報提供を行っていることが注目される。そして、第3回では、いよいよ中間報告の日程調整に入る事務連絡を投げかけることにより、多くの学生たちが夏休みに入る期間を狙って、彼らの意欲と注力を高めるまさに適切な広報活動が展開されていることが分かる。

7月上旬には、大学のプロジェクト研究（通常の大学ではゼミナール）の授業時間を使って、「防災まちづくり」をテーマとするも、その焦点をどう絞っていくのかについて、グループワークを続けていた。そして、このような状況のなか、豊田プロジェクトのメンバーの4年生の中にも就職活動に一区切りをつけ、少し時間に余裕の取れる学生2名が出てきた。そこで、早速彼らと打ち合せを行うことにし、担当部署にヒアリング調査に行くに先立って、当該テーマに関する先行研究の調査を行うことにした。およそ1週間の時間をかけた7月30日に、当方の研究室で彼らが収集した先行研究の文献リストと論文のコピーをお互いに持ち寄り、今回のテーマと最も関連するいくつかの論文を抽出し、学生が各自分担して、その論文を読み込み、要約



を作成することにした。

あわせて、市の事務局の担当者に依頼して消防本部総務課の方から豊田市の消防団活動の現状について聞き取り調査を行う日程の調整をお願いすることにした。その結果、8月7日の午前10時半に、4年生3名と3年生3名および担当教員とで豊田市役所を訪問することになった。当日は、事務局の経営戦略室の方とともに消防本部総務課から2名、市長部局の企画課からも1名が加わって頂き、およそ2時間近く、その現状について詳細に話を聞くことができた。大学に戻ってからは、その内の4年生1名がサブリーダーとなって、聞き取った内容の文章化を行うとともに、その構造化をあわせて行うことにした。そして、これら文献調査とともに、ヒアリング調査を受けて、およそ一月後の9月5日の午前の時間に当方の研究室に4年生数名が集まり、今回の研究テーマに関する将来像、目標、現状分析、問題意識についてディスカッションを行い、9月9日には学生たちのみで話し合う機会を設け、中間報告会で報告する内容の詳細を詰める作業を行っていた。

その上で9月12日の豊田市庁舎での中間報告会に臨むこととなった。この中間報告会でのアドバイスをを受けて、9月28日に開催される「豊田市産業フェスタ」において、当ゼミの学生たちがブースを出させて頂くことになり、そこに参加した親子に対して市の消防団をはじめとする防災まちづくりに関するアンケート調査を行うとともに、消防団の方に対する聞き取り調査の実施に係る関係者への調整をお願いできることになった。9月26日に大学集まった学生たちは、アンケート調査とヒアリング調査の項目とを吟味し、最終的には指導教員のアドバイスを受けながら、アンケート調査の調査票とヒアリング調査の項目とを決定した。

この間にも、市の担当者からは第4弾、第5弾のニューズレターが届いている。以下でも同様に原文を紹介することにした。



News Letter 学生まちづくり提案 ～ミライのフツー信～ vol. 4 2014.8.8



こんにちは。暑い日が続きますが、お元気にされているでしょうか。  
台風が近づいていますので、お出かけの方はくれぐれもご注意くださいね。

さて、今回は「学生交流会」のお知らせです。  
せっかく同じ「まちづくり提案」に取り組む学生どうし、これからも続くようなつながりが生まれるといいですね。  
ということで、レクリエーションによる、ゆるい交流イベントを企画しました。  
ぜひお気軽にご参加ください。

《学生親睦企画 学生交流会》

- 目的 豊田市まちづくり提案に取り組む学生間の出会い・交流の場とし、提案事業後も続く、つながりを生む機会とします。“普通の学生生活にはない出会い”や“学生だからこそできる楽しい交流”が生まれればとおもいます。
- とき 平成26年8月27日（水）  
受付 14時30分～  
開始 15時00分～17時45分頃
- ところ 豊田産業文化センター 多目的ホール  
(豊田市小坂本町1-25)
- 対象 平成26年度 学生発⇒豊田市まちづくり提案発表を行うグループメンバー
- 内容 ①経営戦略室からの話  
②レクリエーションゲームによる交流会  
知り合いが増えることはもちろん、レクリエーションゲームを通じて、  
交流をサポートします。  
※日程の調整がつけば…市長も来るかも？
- 持ち物 特になし
- 服装 軽装（体を動かすゲームも行います）
- 申込 8月19日（火）までに、①グループ名、②参加人数、③氏名（ふりがな）を  
豊田市青少年センターにFAXまたはメールしてください。
- 問合せ先 豊田市青少年センター  
豊田市東梅坪町8-3-1  
電話 0565-32-◎▽○△  
FAX 0565-32-○△◎▽  
e-mail ◎▽○△@hm2.aitai.ne.jp

では、みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。



Newsletter 学生まちづくり提案 ～ミライのフツー信～ vol. 5 2014.8.19



こんにちは。

お気づきの方もいらっしゃるかもしれませんが、題字の News Letter の表記を Newsletter に変更しております。

ご指摘をいただいてからしばらくの間、失念しておりました。私の不徳のいたすところで申し訳ありません。

さて、気を取り直して・・・。

本日は二つお知らせがあります。

一点目は、意見交換会についてです。

代表者の皆さんに提出していただいたスケジュールを元に、意見交換会のスケジュールを組みましたので、別添ファイルで御確認をお願いします。

もし御都合が悪くなってしまった場合は、再度調整させていただきますので、事務局まで御連絡ください。

意見交換会の会場は、豊田市役所 東庁舎7階 東73会議室です。

こちらにお越しになられたことがない方もいらっしゃるかもしれませんが、

市役所は国道153号をはさんで、北側に東庁舎と西庁舎、南側に南庁舎があります。

今回の会場は、東庁舎になりますので、お間違えのないようお気をつけください。

お車でお越しの場合は、東庁舎の駐車場にとめていただいた方がよろしいかと思います。

隣の部屋（東74会議室又は東72会議室）を控え室として開放しますので、お呼びするまで、そちらでお待ちください。

二点目のお知らせです。

本日が申込みの締め切りとなっていた、学生交流会ですが、残念ながらあまり応募状況が芳しくなく、このままでは、開催が危ぶまれています。

そこで、申し込み期限を、8月23日（土）まで延長しますので、ふるってお申し込みください！

先回のお知らせでは、市長の予定が未定となっておりましたが、現在のところ、市長も短い時間ではありますが、まちづくり提案に取り組む皆さんを激励に来場する予定です。

それでは、提案書提出まであと72日、残暑厳しい毎日ですが、体調に気をつけてがんばってください。

このように、提案書提出までのカウントダウンを伝えながらも、和やかなムードで行われ市長も参加するという学生交流会の案内をあわせて行うなど、硬軟取り混ぜた市の担当者の「周到な」広報に対する意欲と姿勢とを見て取ることができる。

さて、産業フェスタから戻った学生たちは、アンケート調査の集計とヒアリング調査で得た情報の文章化を、早速行っていた。10月3日には、これらの情報を持ち寄って、最終的な政策提案書の素案の検討作業に入った。そして、10月9日には、翌日のプロジェクト研究の授業で下級生や他の4年生に対して、政策提案書の最終企画に向けたプレゼンを行う資料を作成し、10月10日の授業で報告を行い、その後活発な質疑応答が続いた。ゼミでの中間報告を受けて、10月14日には大学生向けのアンケート調査を実施することを決め、あわせてその調査項目の検討作業に入っている。その上で、10月21日には、2大学4ゼミによる合同合宿での第2回目の中間報告に向けたプレゼン資料の再修正と当日の合同ゼミでの配布資料の作成を行っている。さらに、10月23日には、再び豊田市役所を訪問して、あらかじめお願いしていた都市部で消防団活動に関わっておられる方に対する聞き取り調査を実施している。合同合宿間際の聞き取り調査であったが、24日夕方から26日にかけての合同合宿では、明治学院大学や総合政策学部の他の教員のコメントとともに質問者となった学生たちとの間で熱心な質疑応答が行われた。

ところで、この間の10月11日には、第6弾のニューズレターが市の担当者より届いている。ひとつは、最終的に審査員の顔ぶれが決まったということと、今後の選考の手順と政策提案書の報告会の当日のスケジュールに関する事務的な連絡であった。しかし、とりわけ注目されるのは、11月26日に行われる政策提案書の報告会において、事務局とともに当日の実施を担う学生ボランティアの募集をあわせて行っているところである。事務局がすべてをお膳立てして、学生たちが政策提案を行うのではなく、学生たちもボランティアとして実施にかかわることにより、この報告会を皆が互いに協力して遂行する企画であることを明確に示している。ちなみに当プロジェクト研究の学生たちは、7名でチームを編成していたこともあって、政策提案書の採択の結果如何にかかわらず、報告会当日のボランティアとして関わることにした。そして、提案書を提出した直後の11月6日には、第7弾のニューズレターが届き、提案書の提出状況（18件の応募のうち提案書を提出したグループは15件）と報告会の当日の内容等についての事務的な連絡が切れ目なく続いていた。以下、同様にこれら2つの原文を掲載することにした。



Newsletter 学生まちづくり提案 ～ミライのフツー信～ vol. 6 2014.10.11

皆さまこんにちは。

随分と間が空いてしまい、大変申し訳ありません。

提案書提出まで、あと残すところ19日となりましたが、進捗状況はいかがでしょう。

さて、9月の意見交換会はお疲れ様でした。各グループ代表者の方のご協力で、すべてのグループと顔を合わせてお話することができました。本当にありがとうございます。

エントリーシートをいただいてから、ほとんどは顔の見えないお付き合いでしたので、皆さんの生き生きとした姿を目の当たりにできたことが大変うれしく、また、随分早くからお待ちいただいていたたり、びしっとスーツでお越しいただいたり、‘いまどきの’大学生の素晴らしさに自分の学生時代を思い返し恥ずかしくなるとともに、頭が下がる思いでした。

そんな皆さまに折り入ってお願いがあります。

現在、11月26日の発表会に向けて事務局としても準備を進めているところですが、発表会当日、運営のお手伝いをお願いできないでしょうか。

それには二つ理由があります。

ひとつは単純に人手が足りていないということ。

もうひとつは、学生発のまちづくり提案発表会を、学生の関わりで盛り上げたいということです。具体的には、受付スタッフ、会場案内スタッフ10名ほどと、可能ならば司会進行をお願いできるというと考えています。

もちろん発表会に出場するグループの皆さんは、なかなか難しいこともあるかと思いますが。

そこで、勝手なお願いですが、発表会に出場されないグループの皆さんにもご協力をお願いしたいと思います。

協力をしてもいいよ、という方がいらっしゃったら、また、グループ以外のお友達などでもお手伝いをお願いできる方がいらっしゃったら、古井まで御連絡ください。

書類審査の結果発表後でも結構です。どうぞよろしく申し上げます。

話は変わりますが、皆さんの提案書審査と発表会の審査をしてくださる、審査委員の方々をご紹介したいと思います。次の5名の方々です。

- ・ 株式会社三菱総合研究所 プラチナ社会研究センター 主席研究員  
チーフプロデューサー 松田智生様

- ・ 豊田商工会議所 副会頭 河木照雄様
- ・ 豊田まちづくり株式会社 取締役 生駒みどり様
- ・ 一般社団法人 豊田青年会議所監事、一級建築士 小野健様
- ・ 豊田市 太田稔彦市長

さまざまな角度からまちづくりに関わっていらっしゃるプロの方々ですので、柔軟で的確、そして厳正な審査をいただけることを保証いたします。

今後の予定は次のとおりです。

10月30日（木）24時 提案書締め切り  
11月1日（土）～7日（金）書類審査  
11月8日（土）～9日（日）審査結果通知  
11月26日（水）午前9時から 発表会準備、リハーサル  
11月26日（水）午後1時15分～4時45分 発表会、表彰式

提案書の様式及び作成要領を添付しました。何かご不明な点があれば、お気軽にお問い合わせください。

締め切りまでの大詰めを迎え、精神的にも体力的にも大変なことと思います。  
体調に注意して、あともうひとふんばり、がんばってください！



Newsletter 学生まちづくり提案 ～ミライのフツー信～ vol.7 2014.11.6



皆様こんにちは。朝晩めっきり寒くなりましたね。体調を崩されたりしていませんか？

さて、まちづくり提案への取組、本当にお疲れ様です。諸々の事情により、残念ながら3グループは提案書提出に至ることができませんでしたが、最終的にすばらしい15の提案書をご提出いただきました。（提案一覧を添付しております。）学生の皆さん、本当にお疲れ様でした。また、ご指導くださった担当教員の先生方、本当にありがとうございます。

現在、審査委員の皆様提案書を審査していただいているところです。結果については、今しばらくお待ちください。

審査結果が出次第、11月8日（土）を予定していますが、代表者及び担当教員の方宛にメールでお知らせいたします。提出に至らなかったグループの皆さんも、色々と悩まれ、葛藤があっ

たこととお察しします。これまでの努力を、来年の再チャレンジにつなげていただければ幸いです。

提案書の提出でほっとしたのも束の間、11月26日（水）の発表会が近づいてまいりました。出場を想定してご準備をお願いしたいと思います。

豊田産業文化センターの小ホールにおいてプレゼンテーションを、多目的ホールにおいてポスターセッションを行います。プレゼンテーションの方法は自由です。プロジェクター、スクリーン、パソコンは御用意しますので、必要に応じてお使いください。時間は10分以内です。プレゼンにおける質疑応答はありません。ポスターセッションは、移動式展示パネル（縦1800×横1350）1枚に展示してください。折りたたみ机やイスも使っていただいて結構です。時間中、お一人以上がパネル近くに待機していただき、来場者からの質疑にご対応ください。

発表会は、13時15分スタートですが、会場は9時から使用できますので、準備とリハーサルを午前中に行いたいと思います。

今後、発表会のポスターやチラシ（添付ファイル「チラシD」のデザイン）を各所で目にされるかもしれません。報道機関への情報提供も行っていますので、今後新聞等で取り上げていただけるかもしれません。せっかくの機会ですので、頑張って取り組まれている皆さんの姿を多くの方に御覧いただきたいと思っています。ポスターセッションは、一般投票による審査も行います。

皆さんも、ご家族、ご友人をお誘いいただき、是非、晴れの舞台を多くの方々に見にきてもらってください。

学生発⇒豊田市まちづくり提案のホームページを更新しています。

意見交換会、発表会の記事を掲載していますので、こちらも御覧いただければと思います。

[http://www.city.toyota.aichi.jp/division/am00/am01/1265995\\_17379.html](http://www.city.toyota.aichi.jp/division/am00/am01/1265995_17379.html)

（以下省略）

そして、予告通りの11月8日には、審査結果が各チームに伝えられた。当プロジェクト研究は15チーム中6番目の順位で報告会に参加することが決定した。審査結果は、審査委員たちによる得点化が行われていた。審査基準は、①必要性、②有効性、③実現可能性、④未来志向性、⑤独自性の5項目で、必要性、有効性と独自性では上位チームと肩を並べる成績であったが、未来志向性が低い評価に止まっていたため、最終的な政策提案書の報告会に出場するチームの中では、真ん中の結果となっていた。このように、客観的な審査結果が、あわせて示されていたことにより、学生たちは自分たちの提案の強みと弱みとを再吟味することが可能となっ



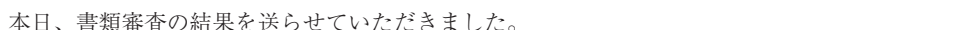
た。そして政策提案書の更なるブラッシュアップを余儀なくされたとともに、あと一步で入賞できるかもしれないという新たな意欲の原動力が生まれたことも否定できない。

### 3、政策提案の報告会に向けた取り組みとその結果

本節では、審査結果の告知を受けて、政策提案書の報告会までの経緯を辿ることとする。11月8日に審査結果の通知が届いた同日に間髪を入れずに、第8弾のニューズレターが届いている。その内容は、当日の報告会に参加するか否かに関わらず学生たちの努力に敬意を評するとともに、報告会の参加チームとして選ばれなかった団体についても、別途、参加を学生に限らない「チャレンジコンテスト」が用意されていることを伝えることにより、再チャレンジの機会があることを明示し、あわせて報告会に参加するチームには、当日の入賞が上位3チームだけではなく、さらに特別賞として3チーム分の追加の入賞が示されている。ここまで努力を重ねて参加した学生チームに対する深い配慮を感じざるを得ない。これまでと同様に、以下でも、その原文を示すことにしたい。



Newsletter 学生まちづくり提案 ～ミライのフツー信～ vol. 8 2014.11.8



本日、書類審査の結果を送らせていただきました。  
5月にエントリーしていただいてから提案書の提出まで、大変なことも多々あったのではないのでしょうか。とりわけ代表者の方は、プレッシャーや気苦労も少なからず感じられていたことと思います。皆様のがんばりに、心より敬意を表したいと思います。

わたくしとしましては、豊田市で初めて実施したこの「学生発⇒豊田市まちづくり提案」に、勇気をもって参加してくださった学生の皆さんに、ものすごく勝手な親近感を抱かせていただいております。結果はともあれ、今回の経験が少しでも、皆様が社会に出られるための良い糧になればそんなにうれしいことはありません。

それから、メール最後のInformationでもお知らせしますが、対象を学生に絞っていない、「ミライのフツー☆チャレンジコンテスト」の募集が引き続き始まります。  
今回エントリーしていただいた内容で、十分可能性がありそうなものがあると思うので、今回の経験を生かして是非チャレンジしていただきたいと思います。特に今回悔しい思いをされた方の再チャレンジをお待ちしています。

発表会に出場していただくグループの代表者の方にお願ひがあります。

添付した出場Gの表を確認してください。誤り、変更等がありましたら、急で申し訳ありませんが、11月11日（火）までに、御連絡ください。修正の必要がなければ結構です。

発表の順番については、勝手ながらエントリーの順番とさせていただきます。

予定としては、1時30分～14時25分の間に1番から5番、休憩をはさんで14時45分～15時40分の間に、6番から10番、という流れになります。発表と発表の間は1分しかとってありません。スムーズに交代できるようにご協力ください。

そのため、パワーポイントなどを使用されるグループは、前日25日（火）の午前中までにデータを経営戦略室へ送ってください。当日会場で使用するパソコンに、すべて保存しておきます。ただし、念のためデータは御持参ください。

うれしいお知らせがあります。

発表会において、「最優秀賞」「優秀賞」「奨励賞」を決定し、表彰しますが、そのほかに特別賞として、豊田商工会議所様から「会頭賞」、豊田青年会議所様から「豊田青年会議所賞」、株式会社豊田まちづくり様から「まちづくり会社賞」をいただけることになり、それぞれにとっても素敵な副賞をご用意いただきました。

発表会まであと17日、良い発表会となるよう、頑張りましょう。



～ Information ～



豊田市企画政策部企画課よりお知らせです。

豊田市では、合併10周年を機に推進している「新☆豊田市誕生10周年プロジェクト」の事業として、少し先の未来を見据え、地域課題の解決や新しい社会システムを創るきっかけとなるような、市民発の事業提案を募集する「ミライのフツー☆チャレンジコンテスト」を実施します。

最大で100万円の事業支援をするコンテストの説明会を、下記の日程で開催しますので、アイデアをお持ちの方、まちづくりに取り組みたい方、応援したい方は、ぜひご参加ください。

■11月12日（水） 午後7時～ 豊田市福祉センター45会議室

■11月15日（土） 午前10時～ 豊田市福祉センター34会議室

詳しくは、添付の募集要項、説明会チラシをご覧ください。

この間、学生たちは、第8弾のニューズレターが届いた11月11日に、今後の聞き取り調査の予定を検討し、企画書の評価について、彼らなりのフィードバックを行っている。さらに、11

月13日には、再び企画会議を開いて、今後の予定についての検討を進めていた。その上で、11月15日には、一番の課題であった評価項目の「未来志向性」、つまり「ミライのフツー」について改めてディスカッションを行うとともに豊田市でのヒアリング調査の項目について最終的な詰めを行っている。11月17日には、豊田市に出向かせて頂き、担当者に対する最後の聞き取り調査を行い、11月18日以降は連日、朝から夜まで大学の演習室に集まり、パワーポイントとポスターの作成に追われていた。

そして、この間、報告会まで2週間を切った11月14日の最後のニューズレターが届いている。その内容は、以下に示すように、当日の報告とポスターセッションの詳細を伝える添付ファイルとともに、各チームを激励し、あわせて当日のボランティアスタッフの募集を伝えるものであった。



紅葉が美しい季節になりました。

豊田市の香嵐溪もそろそろ見ごろを迎えますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

発表会に出場されるグループの皆さんは紅葉どころではありませんね。

短期間での準備はさぞかし大変だと思いますが、本番を晴れやかな気持ちで迎えられよう、ここはぐっと踏ん張ってください。

遅くなりましたが、プレゼン、ポスターセッションについて、流れなどをまとめましたので、御確認ください。詳しいタイムスケジュールは近日中に御連絡いたします。

それから、発表会に出場されないグループの皆さんにお願いです。設営、受付、ポスターセッションの得票集計、片付け等でお手伝いをお願いできないでしょうか。恐れ入りますが、代表者の方は、11月18日（火）までにお手伝いいただける方のお名前と可能な時間帯をお知らせください。（Omori2014さんからはお返事をいただいていますので、結構です。）

寒くなりましたので、風邪などひかれないう、体調にもお気をつけください。

11月26日、いよいよ報告会の当日を迎えた。学生たちは朝から会場に集まり、ポスターセッションの準備や報告会での最終的なプレゼンお打ち合せ、そして来場者の受付が始まると、手分けをしてボランティアのスタッフとして事務局スタッフの方々のお手伝いをさせて頂くなど、大忙しの日であった。報告会の結果は、豊田青年会議所（JC）賞を受賞した。上位の3チームには及ばなかったものの、入賞を果たした。以下の記事は、中京大学のホームページ

(<http://www.chukyo-u.ac.jp/achievement/news/2014/11/007904.html>、2014年2月23日確認)に、その時の大学関係者による取材内容が掲載されたものである。なお、掲載された写真は省略している。

**総合政策学部桑原プロジェクト研究が「学生発⇒豊田市まちづくり提案」で豊田JC(青年会議所)賞「災害に強いまち豊田～地域で育む防災力～」を提案**

私たち桑原プロジェクト研究チームは、「学生発⇒豊田市まちづくり提案」に参加し、豊田市の“ミライのフツー”を提案しました。

報告テーマは「災害に強いまち豊田～地域で育む防災力～」です。東日本大震災では行政自体が被災し「公助の限界」となり、今後は、自分の地域は自分で守る「共助」が重要となります。そこで着目したのが、普段から地域密着の活動・訓練を行い、災害時には地域の先頭に立つて活動を行う「消防団」です。

しかし、消防団員の人数は年々減少しており、継続して消防団員を確保することが急務であると考え、特に若者に着目した政策提案を行いました。高校生を対象とした消防クラブである「青年消防クラブの設立」、大学生が消防団へ入団する契機となる「大学生の消防団体験」、さらに引退した消防団員を活かすために「消防団OB・OGの活躍の場の提供」の3つの政策を提案しました。

政策提案に向け、豊田市の住民の方にアンケート調査を行ったり、豊田市消防本部消防団担当の方に何度もヒアリングをお願いし、消防団の現状や課題、やりがいなどをお聞きし、提案内容についてもご指摘やアドバイスなどをいただきました。

11月26日に行われた報告会では、豊田JC(青年会議所)賞を頂くことができました。豊田市のミライを考えることで私たちのミライを考える、とてもいい機会となりました。この経験をこれからも活かしていきたいと思えます。

(総合政策学部 桑原プロジェクト研究4年 神谷明里)

以上のように、4月10日に市のホームページ上と記者報道で公募された政策提案に参加した当プロジェクト研究の学生たちの取り組みを中心として、豊田市の対応とを追ってきたが、そこからうかがえるのは、地域づくりの提案に熱意を傾ける学生たちの努力に敬意を払い、他方で学生たちの意欲を最大限引き出そうとする市の担当者の方々の思いである。報告会に参加したいずれの学生たちも、市の関係者の方々のこうした思いを受け止め、これに応えようとして最後まで粘り強く自分たちの構想を纏め上げていたといえる。

こうした思いのためであろうか、当プロジェクト研究の学生たちは、政策提案の報告会をもって一区切りをつけるという考えもあったであろうが、さらに「ミライのフツー☆チャレンジコンテスト」に向けて、再び事業化提案の企画創りに取り組むことになる。

#### 4、政策提案の事業化に向けた取り組みとその結果

さて、報告会の余韻も冷めない12月2日に、学生たちに大学の演習室に集まってもらい、今回の政策提案の応募から報告会に至るまでの振り返り会を行った。限られた時間の中で燃焼しきったという思いがあるものの、他方で結果として上位3チームの中に食い込めなかったという残念な思いもひとしおであった。このため、担当教員としても全面的に支援することを示して、次のステップである事業化に向けたチャレンジコンテストに応募することとした。

このコンテストの担当部署は企画課となっており、またこの事業企画に応募するための要件として、年内に数回予定されている「ミライカフェ」に参加することであったので、まずは手始めとして担当教員と4年生の学生2名とで12月15日の「ミライカフェ」に参加することにした。当日は、夜の19時から21時まで豊田市駅前にある市の市民活動センターにうかがうことにした。全く事前の準備もなく、政策報告会の報告内容の要約を持参して会場に入ると、各自が寄付金の100円を払って飲み物をセルフサービスで用意するように促され、あわせて何も記入していない名札を渡され、6つほど用意されているテーブルのひとつに3人で座ることにした。既に会場には、多くの市民活動団体やボランティア団体の方々が参加されており、市民活動の活発さがうかがわれる熱気に溢れた会場であった。そこで、各テーブル20分の制限時間を設定され、時間内に自己紹介と自分たちの事業提案の内容を説明すると、皆がバラバラに他のテーブルに移動して同じことを4回繰り返すというワークショップが展開された。ここでは、それぞれの団体の事業化に傾ける夢や目標をお互いに共有するとともに、どこか他の団体と連携することができないかという仲間探しを行う場であることを理解した。限られた時間であったが、大変楽しい時間を参加された団体の方々と共有することができた。また、それぞれのテーブルには、実行委員会のメンバーや市の担当者の方々がコーディネーターとして配置されており、適宜交通整理も行われていた。

2015年1月14日の夜に行われたミライカフェには、当方と4年生の学生3名とで参加した。場所は豊田市駅から歩いて10分ほどのところにある市の市民交流施設で行われたが、前回よりは、論点が集約されており、ミライのフツーツーについてのイメージ、事業目標の設定、パートナーとして連携したい相手、事業のネーミング、事業の概要などを記入するB4サイズ用紙を渡され、これに記入した後に、お互いの事業を紹介し合うという前回と同様の参加型のワークショップであった。ただし、今回は、ある程度、環境やまちづくりといったように、ある程度のグループ分けが行われており、そのテーブルには環境事業に取り組んでおられる事業所の方や市の商工会議所の方、あるいはまちづくり団体の職員として派遣されている市の関連部局

の方というように、事業計画書の作成に向けた各団体への具体的なアドバイザーという色彩が強くなっていった。

そして、第3回目の2月2日のミライカフェでは、第2回目と同じメンバーで参加したが、再び駅前の市民活動センターを会場として19時から21時まで行われた。今回は、当方のアドバイザーとして市の消防本部の方々4名が来られた。その内の2名の方は、11月26日に行われた政策提案の報告会に向けた事前インタビューでお世話になった方であった。学生たちは、消防本部の職員の方々から、その日の会場で2時間近くにわたってアドバイスを頂くとともに、後日、数度のわたり消防本部および企画課の職員の方からご指導を頂くことができた。このように、本来の業務を抱えておられるなかで、市民活動の支援にも精力を傾けられる市の職員の方々に接したことで、当プロジェクト研究の学生たちは多くのことを学んだに相違ない。関係者の方々には、この場を借りて深く感謝を申し上げたい。

さて、こうして事業化の企画書を纏め上げた学生たちは、2月13日に無事にその提出を終えることができた。最後に（資料）として添付したのは、今回提出した企画書の骨格である。4月10日の募集にはじまり、11月26日に政策提案の報告会を終えて、さらにふた月近くの時間をかけて事業企画とすることができた。政策提案の報告会の時には、消防団への体験入団を含む3つの事業提案を予定していたが、現実の事業化の企画にあたっては、この事業に企画を絞り、その企画と募集から事業の実施、事業の実施の後の体験談の取材・編集と次の募集に向けた募集活動という1年間のスケジュールで、当該事業を遂行するという流れに落ち着いた。そして、二年目以降に、当初、考えていた残りの事業化を検討することとした次第である。

## 5、今後の展開

3月8日に豊田市のスカイホールで、今回の「ミライフツー☆チャレンジコンテスト」に応募した40の企画について、市民による投票が実施され、その投票結果と3月15日に行われるプレゼンテーションの結果にもとづいて具体的に予算化が図られる事業提案が決定されることとなる。私たちが応募した企画が採択されているのか否かは、この論叢が刊行されている3月末の時点では明らかとなっているはずである。

しかし、思いがけない提案が市の経営戦略室から届いた。このチャレンジコンテストの結果に関わらず、豊田市と中京大学との連携協定にもとづく具体的な事業化の取り組みとして、双方の間で覚書を交わそうというものである。今のところ、3月11日にこの覚書が交わされる予定となっている。既に、当プロジェクト研究の学生たちには3月14日に市のスカイホールで行

われる消防フェスタの見学に行くことを伝えているが、これに先立って、今回の消防団への体験入団を骨格とする事業化の企画が、春以降も継続することとなりそうである。望外のことはあるが、さらに学生たちと、より洗練された事業提案へと高めて行くことにしたい。

最後になるが、この事例紹介を纏めるにあたって豊田市経営戦略室をはじめとする多くの関係者の方々のご支援を頂いたことに改めて深く感謝申し上げたい。

追記 本稿は、中京大学社会科学研究所「大学と地域社会との連携に関するプロジェクト（代表 国際教養学部 渋谷努教授）」における共同研究の成果である。

#### [参考・引用文献]

- 1) 大宮登・増田正編著、高崎経済大学附属研究センター地域政策研究センター編集（2007）『大学と連携した地域再生戦略』ぎょうせい
- 2) 渋谷努編（2013）『民衆力の可能性』中京大学社会科学研究所叢書32



(資料)

■ 提案事業の概要

|                     |   |         |    |
|---------------------|---|---------|----|
| 事業名                 | Let's try “HAPPY SBD（消防団）”！   |         |    |
| ミライのフュー             | 若者が地域防災についての知識を身に付け、将来災害が発生した際に、地域を守るようにする。   |         |    |
| 事業概要                | 作成した年間スケジュールや体験カリキュラムに基づく、消防団に関する講座や実際の消防団体験を行ってもらうことで、消防団への興味関心を持ってもらう。さらに、参加者自身に学んだことや体験したことを基に、ポスターなどの作成も行ってもらい、広報活動も参加者自身に行ってもらおう。また、若者が学生ボランティアを結成して、若者自身で本事業の企画や運営約を担ってもらえるようにする。そして、2年後3年後、若者が中心となって防災活動に取り組んでもらえるようにする。 |         |    |
| コラボレーション<br>（協働）の内容 | 消防団   | ×       | 若者 |
|                     | 地域防災  | ×       | 若者 |
| 事業実施場所・<br>施設       | 中京大学豊田キャンパス   |         |    |
| 支援希望金額              | 円   | 事業全体の金額 | 円  |
| 事業の成果・効果<br>（1年間）   | 体験を年2回実施<br>参加者：若者30人（15人×2回）<br>学生ボランティア20人（10人×2回）  |         |    |
| 類似の事業実績             | 不明  |         |    |